

## 遭難事故が多発しています!!

### もう一度点検 計画と対応力

冬の自然は厳しく、急変します。冬山経験豊富な信頼できるリーダーと、事故に対応できる力を持ったパーティーであることが必要です。

- 1 エスケープルート（万一の時の逃げ道）は考えていますか。
- 2 気象通報による天気図がとれますか。（ラジオなど）
- 3 応急処置のための知識と医薬品・器具は整えましたか。
- 4 雪崩に対する知識・心構えと装備は整えましたか。（雪崩ビーコンなど）
- 5 緊急時の連絡手段は用意しましたか。（携帯電話・無線など）
- 6 山岳保険の加入は済みましたか。
- 7 登山計画書はパーティー全員でよく検討し、理解していますか。
- 8 事故多発！登山予定の山で発生した過去の事故を確認しましたか。
- 9 条例等で入山が規制されている地域ではないか確認しましたか。

### 登山計画書はあなたの生命を守るザイルです。

平成27年の冬山では遭難した231パーティーのうち172パーティー（約74%）が、登山計画書の提出なし。

#### ●登山計画書の提出先

- 家庭、クラブ（山岳会）、職場、学校など。
- 山域の登山指導センターや案内所、登山口の登山届ポストなど。
- 登山地域の都道府県警察本部地域課または山域を管轄する警察署、**交番、駐在所。**（※インターネットを使って申請ができる警察本部等もあります）
- インターネットの登山計画サイト（山と自然ネットワーク「コンパス」など）

#### 登山計画書の提出

- 安全登山のための自己点検の機会となります。
- 遭難事故の発生を早い段階で警察が認知でき、捜索救助活動が迅速かつ合理的に行われます。
- 捜索救助活動にかかる膨大な社会的及び個人的負担を軽減させることができます。
- 家族や関係者を安心させることができます。

これまでも登山計画書を提出したことにより、命拾いしたという事例が数多くあります。登山計画書を提出するということは、あなたの生命を守るザイルであると考えて必ず実行しましょう。また、登山計画書の提出先には、下山の報告を忘れずにしてください。

### 遭難事故防止の第一歩は登山計画書の作成と提出です。

## 冬山登山の警告

### 「冬山は十分な体力、装備、計画を！」

平成27年12月1日

山岳遭難対策中央協議会

冬山シーズンにおける転滑落や雪崩等による事故が後を絶ちません。また豪雪や急激な気象の変化に対応できず、行動不能になる事例も見受けられます。冬山は、**急激な気象の変化、大雪、雪崩**など厳しい自然条件下にあり、たとえ優れた経験や技術、知識を有していても、天候の急変等により遭難事故に結びつく場合が多々あります。近年は、これまで雪の多くなかった山域でも豪雪となる場合があり、より正確な判断力や十分な装備が必要になっています。

**登山は、計画段階から無事に帰宅するまで、自己責任において行わなければなりません。**日頃から（公社）日本山岳協会及び各都道府県山岳連盟等の開催する冬山登山の研修会、講習会等に参加し、冬山に必要な知識や技能を身に付けるとともに、**冬山経験が豊かで適切な判断力のあるリーダーのもと**で、左記に示した注意事項等をよく参照し、万全の準備を整えて登ることが肝要です。**十分なトレーニング**に裏付けられた自信と**きめ細かい計画**が、心に余裕のある確実な行動を可能にします。「**山に行ってから考えよう**」は**絶対に禁物**です。なお、遭難事故による家族や学校・職場、さらには広く社会に及ぼす影響を考え、**知識や経験、技術の伴わない登山者はこの時期の安易な登山は厳に慎んでください。**

また火山の噴火等、各山域特有の情報を収集して登山計画を立てるようになしてください。

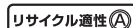
山岳遭難対策中央協議会構成省庁・団体

\*太字は「幹事会」構成省庁・団体

内閣官房 **警察庁** **環境省** **気象庁** **消防庁** 林野庁 総務省 防衛省 **スポーツ庁**

(独) **日本スポーツ振興センター** (株) NTT (株) JR東日本 (公財) 日本体育協会

(公社) **日本山岳協会**



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

## ◎平成27年の冬山における遭難発生状況

(平成26年12月1日～平成27年2月28日)

区分 年別	発生 件数	遭難者数 (人)					合計
		死者	行方 不明	重傷	軽傷	無事 救助	
平成27年	231	39	4	49	51	155	298
平成26年	211	33	5	41	50	156	285
増減	+20	+6	-1	+8	+1	-1	+13

平成25年以降、3年連続して発生件数が200件以上に！  
“自分に限って”という油断は禁物、安全登山はあなたの心  
構えから！！

## ◎過去5年間の冬山における遭難の態様別発生状況 (件数)

転・滑落	道迷い	転倒	疲労・ 病気	天候 急変	雪崩	その他	合計
269 (26.6%)	371 (36.6%)	126 (12.4%)	93 (9.2%)	39 (3.8%)	22 (2.2%)	93 (9.2%)	1013

※ ( ) 内は構成比

## ◎バックカントリースキーによる遭難が多発！

近年、スキー場管理地以外の雪山において警告表示等に従  
わずスキーやスノーボードを行い、コースを外れて遭難する  
ケースが多発しています。このようないわゆるバックカント  
リースキーは、冬山登山と同様の知識・技能・装備が必要で  
す。安易な行動は厳に慎んで下さい。

冬山に関する研修会、講習会等の問合せ先

(独) 日本スポーツ振興センター国立登山研修所 TEL (076) 482-1211(代)  
URL <http://www.jpnsport.go.jp/tozanken/> FAX (076) 481-1534

(公社) 日本山岳協会 TEL (03) 3481-2396  
URL <http://www.jma-sangaku.or.jp/> FAX (03) 3481-2395

## 冬山装備チェックリスト

登山目的にあった装備を持参しよう。

(○は必ず持参のもの。△は状況によって持参のもの。)

品名	品名	品名
○ズボン	○非常食	○ツェルト
○シャツ	○救急用品 (各種薬等)	○スノーソー
○防寒衣 (セーター・羽毛服)	○テーピングテープ	○コンロ
○アンダーウェア上下	○レスキューシート	○燃料・予備燃料
○防風防水透湿パーカ	○テルモス・水筒	○コッフェル・炊事用具
○防風防水透湿オーバーパンツ	○食器類	○ラジオ
○帽子・防寒帽 (目出帽)	○ナイフ	○天気図用紙
○靴下 (ソックス)・予備靴下	○ホイッスル	○トランシーバー (予備電池)
○手袋 (グローブ)・予備手袋	○ヘッドランプ	○標識布・竹
○オーバーミトン	○予備電池・電球	○修理用具一式
○登山靴	○ローソク	○ザイル (ロープ)
○ロングスバツ	○ライター・マッチ	○カラビナ
○わかんじき	○時計	○スリング各種
○アイゼン	○高度計	△伸縮式ストック
○ピッケル	○コンパス	△ハーネス
○スノーシャベル	○1/25000地形図	△サブザック
○雪崩ビーコン	○ルート図	△テント一式
○携帯ゾンデ棒 (プローブ)	○登山計画書	△大型スノーシャベル
○ルックザック	○筆記具	△ランタン
○ゴーグル	○身分証明書	△カメラ
○シュラフ (スリーピングバック)	○緊急連絡票	△サングラス
○シュラフカバー	○携帯電話 (予備電池)	△油性太字ペン
○マット	○健康保険証	△各種登攀用具
	○ロールペーパー	△GPS
	○タオル・手拭	△携帯トイレ
	○ポリ袋	△ヘルメット
	○装備整理袋	

※この装備リストは冬山の標準的な装備です。対象とする山の難易度、  
登山方法により必要な装備は変わりますので、事前にパーティーで  
装備の要否や追加装備の有無をよく検討してください。

“装備に追加 携帯トイレ みんなで取り組む環境保全”

# 最新の気象状況把握が冬山登山の命綱

～大雪、なだれ、急激な気象変化などに細心の注意を～

冬山の天気は、平地とは比較にならないくらい急激な変化をし、悪天が数日継続することも少なくありません。特に低気圧が通過し、その後、強い冬型の気圧配置になる場合、強風や吹雪、短時間での大雪、なだれ、急激な気温低下が起こります。登山の数日前から、最新の気象情報で天気や雪の状況などを確認し、ゆとりある計画を立てることが必要です。さらに、登山中も常に最新の気象情報を利用し、気象の急変等に備えた適切な判断が何より重要と強く認識してください。

## 気象情報の入手先

常に最新の気象情報を利用することが大切です。ラジオやテレビの他、インターネットや携帯端末を利用した情報の入手も可能です。

(公社)日本山岳協会のホームページに、以下の入手先等をまとめていますので、御利用ください。  
(<http://www.jma-sangaku.or.jp/tozan/plan/weatherforecast/>)



(公社)日本山岳協会のホームページ(気象情報のページ)

### □気象庁ホームページ(PCサイト)

気象庁ホームページでは、警報・注意報、天気予報の他、地上・高層天気図、気象衛星、アメダス、気象レーダー、ウィンドプロファイラ(上空の風)等の様々な気象情報を確認することができます。  
(<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>)

### □国土交通省防災情報提供センターホームページ(PC・携帯)

国土交通省防災情報提供センターホームページでは、河川、道路、気象等の各種情報を見ることができます。

(<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>)

また、携帯端末向けホームページでは各種防災情報を見ることができます。

(<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html>)



防災情報提供センター  
携帯端末向けホームページ(Top)

### □民間気象会社等のサービス

民間気象会社等では、特定の山を対象に気象情報提供サービスを行っているところがあります。

(詳細は、各民間気象会社等にお尋ねください)

## ※火山情報にも注意

火山には、噴気や火山ガスが発生している危険な場所があります。登山する山が火山の場合は、火山にどのような危険があるのかを確認して、登山計画を立てましょう。

気象庁や地元自治体が発表している最新の情報を入手し、十分注意して登山してください。気象庁では、「噴火警報」や「火山の状況に関する解説情報」などを火山ごとに整理した「火山登山者向けの情報提供ページ」(下記 URL)を公開していますので、登山前には、必ずご確認願います。

([http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity\\_info/map\\_0.html](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/map_0.html))

また、噴火の発生事実を迅速に発表する「噴火速報」はラジオやテレビ、携帯端末のアプリ等で知ることが出来ます。火山の噴火に気づいた時、噴火速報が発表された時は直ちに身の安全を図りましょう。

(噴火速報の説明：[http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/funkasokuho/funkasokuho\\_toha.html](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/funkasokuho/funkasokuho_toha.html))

